

## 2025年度学修調査結果について（報告）

1. 調査の目的 本学のアセスメント・ポリシーに基づき、教育と学生支援の質保証のための自己点検・評価の一環として、学生の学修行動の実態や学修の成果を調べることを目的とする。
2. 調査対象者 大学の全学生 1831名
3. 調査時期 2025年11月5日（水）～11月25日（火）
4. 回収状況

学部/学科	年度	1年生_	1年生_	2年生_	2年生_	3年生_	3年生_	4年生_	4年生_	合計_	合計_	合計_
		回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
国際	2025年度	35	79.55%	43	97.73%	39	66.10%	33	73.33%	150	192	78.13%
	2024年度	20	41.67%	10	16.67%	15	34.88%	17	29.31%	62	209	29.67%
臨床心理	2025年度	95	79.17%	72	66.67%	54	51.92%	63	56.25%	284	444	63.96%
	2024年度	90	77.59%	65	61.32%	46	41.44%	54	46.96%	255	448	56.92%
健康・スポーツ心理	2025年度	46	77.97%	46	75.41%	29	50.00%	16	29.09%	137	233	58.80%
	2024年度	55	87.30%	32	51.61%	10	18.52%	6	13.64%	103	223	46.19%
子ども	2025年度	119	95.97%	106	79.70%	130	92.20%	98	79.67%	453	521	86.95%
	2024年度	129	92.81%	44	30.14%	106	89.08%	82	57.34%	361	547	66.00%
経営	2025年度	77	73.33%	58	53.21%	78	67.83%	27	24.11%	240	441	54.42%
	2024年度	58	49.57%	29	24.17%	22	19.64%	38	25.68%	147	497	29.58%
大学計	2025年度	372	82.30%	325	71.43%	330	69.18%	237	53.02%	1264	1831	69.03%
	2024年度	352	72.88%	180	36.44%	199	45.33%	197	38.78%	928	1924	48.23%

### 5. 調査結果

#### (1) 上位・下位項目

順位	質問	全学平均スコア
強み 1	Q11 海外留学の有用性	3.78
強み 2	Q7 GW・討議の頻度	3.33
強み 3	Q21 協働力の修得	3.31

順位	質問	全学平均スコア
弱み 1	Q18 外国語力の修得	2.18
弱み 2	Q19 数理・データサイエンスの修得	2.34
弱み 3	Q9 TA の活用頻度	2.56

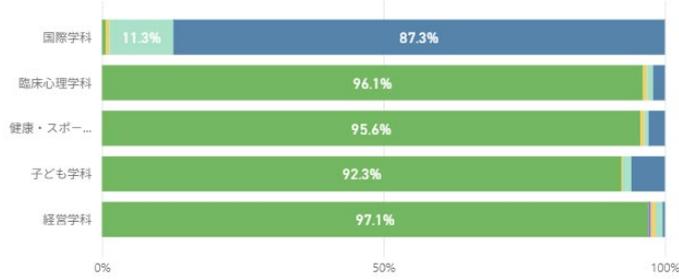
「海外留学」などの経験を問う質問は、経験者（回答者）の数が限られているため評価が偏りやすいが、海外留学を経験した学生からはその有用性が高く評価されている。また、グループワークの頻度が多く、協働力の育成は全体的に上手く機能している。

外国語や数理系といった特定スキルの獲得実感において、全学的に苦戦している。また、TA（ティーチング・アシスタント）などの補助的な指導機会が少ないことが伺える。

(参考：上位項目 学科別内訳)

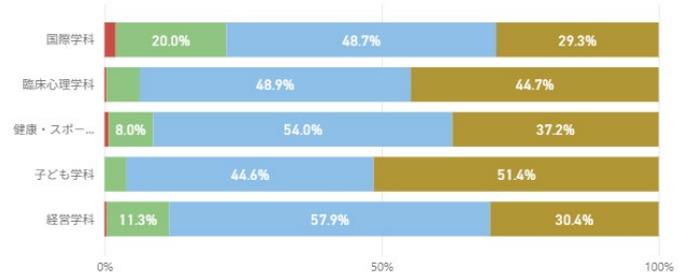
海外留学・海外研修（短期も含む）

● 経験していない ● 有用ではなかった ● あまり有用ではなかった ● ある程度有用だった ● 有用だった



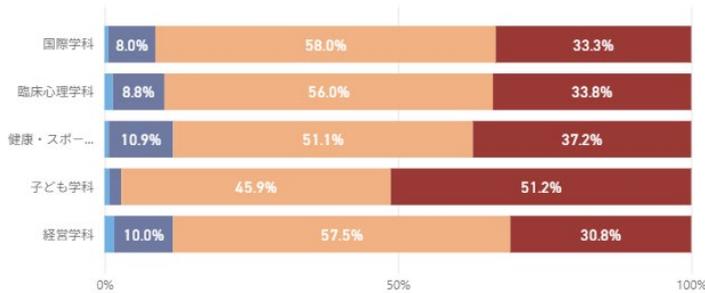
グループワークやディスカッションの機会がある。

● なかった ● あまりなかった ● ある程度あった ● よくあった



他者と協働する力

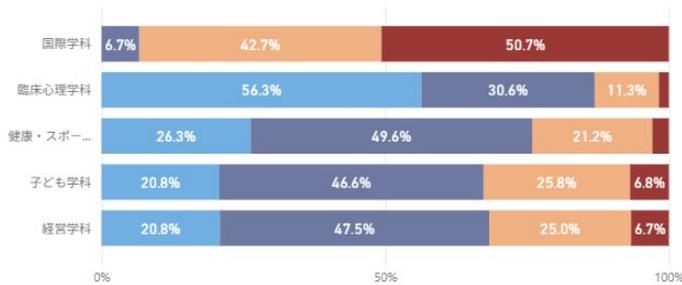
● 身に付いていない ● あまり身に付いていない ● ある程度身に付いた ● 身に付いた



(参考：下位項目 学科別内訳)

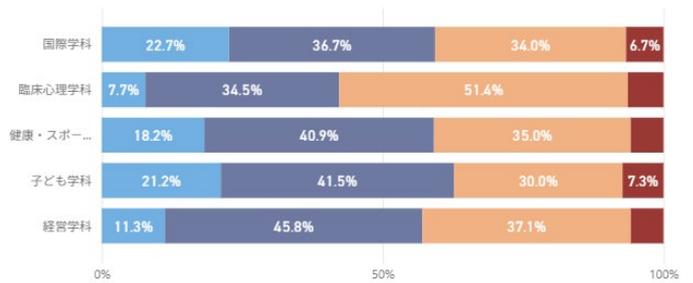
外国語を使う力

● 身に付いていない ● あまり身に付いていない ● ある程度身に付いた ● 身に付いた



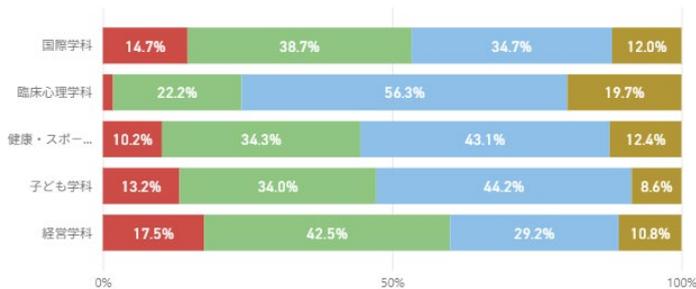
数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能

● 身に付いていない ● あまり身に付いていない ● ある程度身に付いた ● 身に付いた



ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。

● なかった ● あまりなかった ● ある程度あった ● よくあった



(2) 学科別平均値

各選択肢を1～4で重みづけを行い、平均値を算出。4が高位。

質問グループ	質問文(略)	全国平均 (n=28446)	本学平均 (n=1264)	国際学科 (n=150)	臨床心理学科 (n=284)	健康・スポーツ心理学科 (n=137)	子ども学科 (n=453)	経営学科 (n=240)
問1：授業運営状況	教え方の工夫	3.18	3.12	3.02	3.20	3.07	3.21	2.96
	授業外学習指示	3.09	3.15	3.04	3.09	3.11	3.15	3.29
	フィードバック	2.76	2.63	2.75	2.58	2.45	2.81	2.37
	GW・討議	3.30	3.33	3.05	3.38	3.28	3.47	3.18
	教員との対話	2.99	2.85	2.80	2.94	2.81	2.95	2.62
	TAの活用	2.70	2.56	2.44	2.94	2.58	2.48	2.33
問2：経験の有用性	インターンシップ	3.22	3.20	3.15	3.25	3.13	3.24	3.18
	海外留学	3.26	3.77	3.87	3.36	3.50	3.74	2.57
	英語授業履修	2.74	2.82	3.01	2.77	2.57	2.96	2.64
問3：能力獲得	専門知識	3.25	3.17	3.11	3.10	2.98	3.46	2.87
	キャリア観	3.21	3.15	2.95	3.03	2.88	3.50	2.91
	文献収集・分析力	3.06	2.99	2.83	2.97	3.02	3.13	2.83
	論理的ライティング	2.94	2.94	2.78	2.95	2.93	3.08	2.78
	プレゼン・発信力	2.99	2.95	2.89	2.89	2.93	3.03	2.90
	外国語力	2.16	2.18	3.44	1.58	2.01	2.19	2.18
	数理・データサイエンス	2.49	2.34	2.25	2.56	2.28	2.23	2.38
	問題解決力	3.02	2.94	2.83	2.91	2.79	3.05	2.93
	協働力	3.32	3.31	3.24	3.22	3.25	3.47	3.18
	幅広い教養・視座	3.21	3.17	3.24	3.13	3.12	3.30	2.98
問4：成長実感	異文化理解	2.95	2.96	3.58	2.75	2.92	3.07	2.65
	学修意識	3.18	3.11	3.07	3.00	3.06	3.30	2.93
	教育改善実感	2.65	2.60	2.62	2.64	2.51	2.74	2.35
	教員の熱意	3.13	3.02	2.92	3.13	2.95	3.17	2.72
問4：成長実感	成長実感	3.18	3.04	2.98	3.10	2.80	3.29	2.68

全国平均は、「2年生+4年生の在学人数が400人未満」の私立大学だけの回答を集計したもの。

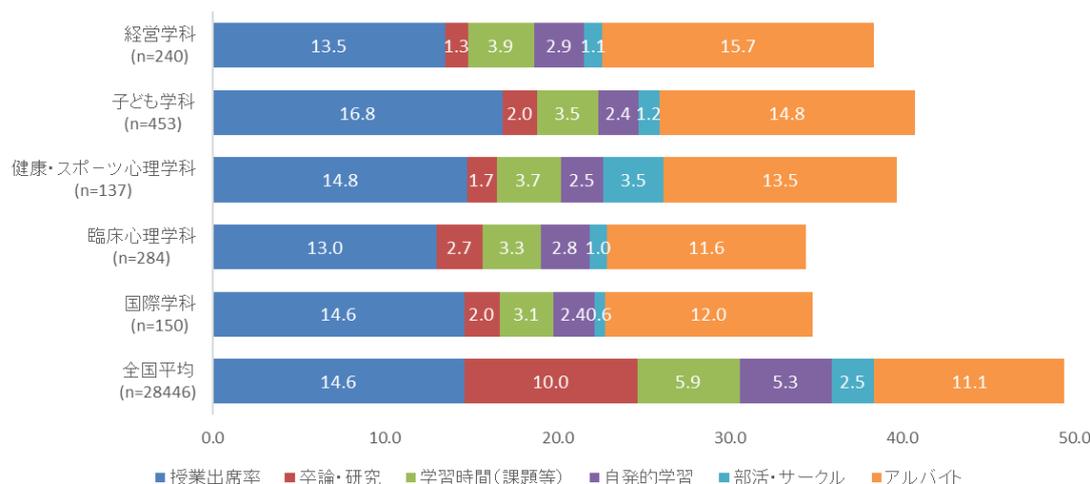
青字が学科間で一番高い値。赤字が学科間で一番低い値。

(単位:時間)

質問グループ	質問文(略)	全国平均 (n=28446)	本学平均 (n=1264)	国際学科 (n=150)	臨床心理学科 (n=284)	健康・スポーツ心理学科 (n=137)	子ども学科 (n=453)	経営学科 (n=240)
問5：生活時間	授業出席率	14.6	14.8	14.6	13.0	14.8	16.8	13.5
	卒論・研究	10.0	2.0	2.0	2.7	1.7	2.0	1.3
	学習時間(課題等)	5.9	3.5	3.1	3.3	3.7	3.5	3.9
	自発的学習	5.3	2.6	2.4	2.8	2.5	2.4	2.9
	部活・サークル	2.5	1.3	0.6	1.0	3.5	1.2	1.1
	アルバイト	11.1	13.8	12.0	11.6	13.5	14.8	15.7

各選択肢の中央値(ただし、31時間以上は33時間)に、各選択肢の割合を乗じたものを合算し平均時間を算出。

学科別 平均的な1週間の生活時間

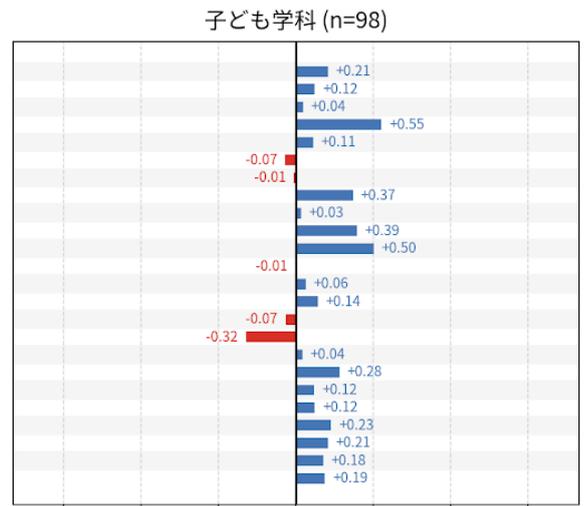
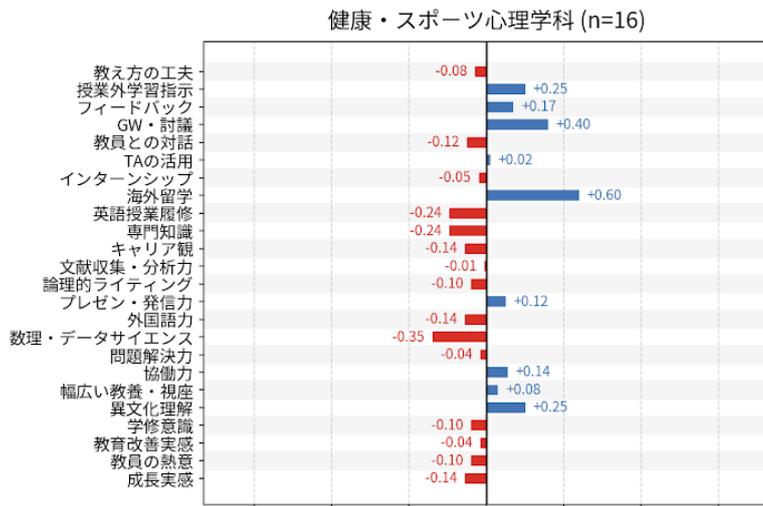
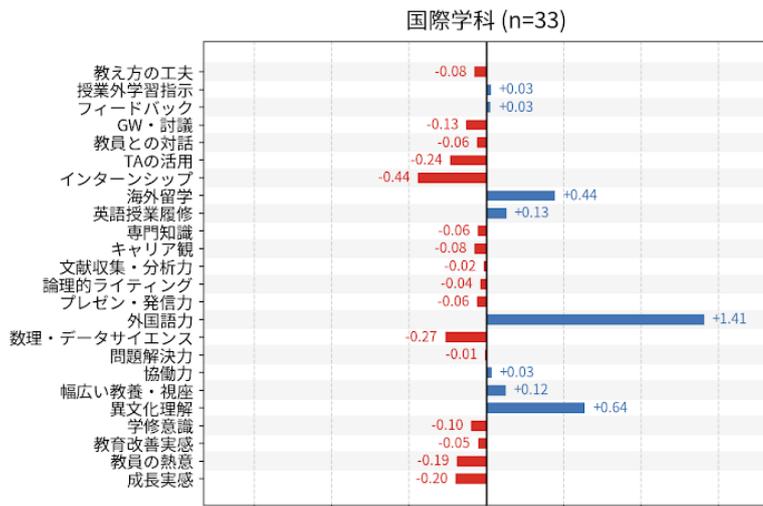


(分析資料) 全国学生調査における全国平均との比較

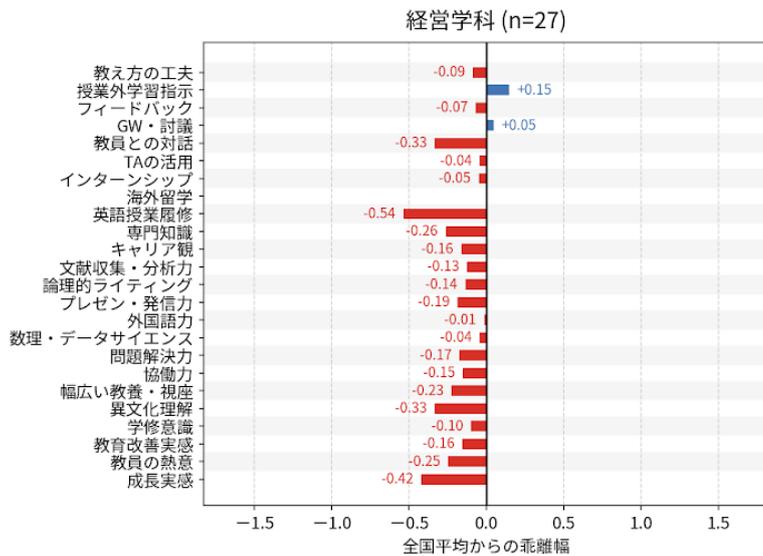
比較対象：令和6年度全国学生調査結果(大学)の4年生以上(n=59075)と本学の4年生(n=237)

目的：4年間の本学での経験と学修成果を他大学と比較することで、本学の現状を把握する。

全国平均からのギャップ(本学4年生 - 全国4年生)



全国平均からの乖離幅



全国平均からの乖離幅

- 学科間でも大きな差が見られる
- 数理・データサイエンスの修得不足が顕著
- 学修意識が低い